

渋沢栄一の経営思想が10カ条でわかる本、「新1万円札」発行直後の7月5日発売
最新刊『理想の経営——渋沢栄一に学ぶ成功への10カ条』
企業経営・部門経営に携わるリーダーの組織づくり実践に役立つビジネス書

株式会社有隣堂（本社：神奈川県横浜市 代表取締役社長：松信 健太郎）は、「新1万円札」発行に合わせて7月5日に、当社出版物の最新刊として、『理想の経営——渋沢栄一に学ぶ成功への10カ条』を発売いたします。本書は、渋沢栄一の経営哲学に心酔し、その著書や関連本を精読し学生時代に起業、複数の会社を経営してきた著者の折原浩氏が、渋沢栄一の経営マインドの全体像を「10カ条」にまとめた一冊です。起業家や中小企業経営者のコンサルタントでもある著者ならではの実践的な解説により、企業経営・部門経営に携わるリーダーの組織づくりに役立つビジネス書となっています。

●書名：『理想の経営——渋沢栄一に学ぶ成功への10カ条』

●著者：折原 浩

●出版社：有隣堂

●定価：税込2,420円（本体2,200円＋税）

●体裁：46判並製・本文244頁

●ISBN：978-4-89660-249-4

●発売日：2024年7月5日（金）

●取り扱い：有隣堂各店（一部店舗除く）、全国の書店

●内容：

『論語と算盤』で道徳と利益の両立を説いた渋沢栄一は、経営学者ピーター・ドラッカーも絶賛する世界的経営者です。

その「日本資本主義の父」と呼ばれた渋沢は、生涯に500社以上の会社設立に携わり、その約6割が今日まで続いています。

渋沢の経営哲学に心酔して著書や関連本を精読し学生時代に起業、複数の会社を経営してきた著者が、その経営マインドの全体像を「10カ条」にまとめた一冊です。起業家や中小企業経営者のコンサルタントでもある著者ならではの解説により、渋沢が説く「理想の経営」を平易な言葉で整理。項目ごとに学びを書き込める「記述式」のメモ欄を設け、経営の実践現場で渋沢哲学の「基本」に戻れる実用的な構成にしています。

【目次】

第1条 やりたいことを明確に描く

第2条 独自のビジネスモデルを持つ

第3条 学び続ける

第4条 お金の流れをつかむ

第5条 計画性を持つ

第6条 決断・行動・検証する

第7条 コミュニケーション力を養う

第8条 常にお客様に問う

第9条 ヒトを創る

第10条 事業継続できる会社を目指す



■ 著者紹介

折原 浩（おりはら ひろし）

1972年埼玉県生まれ。学生時代に起業して以来、経営者として株式会社ディセンターをはじめ計6社を経営する一方、起業家や中小企業経営者へのコンサル、セミナーを行なう。

現在、全国商工会連合会・認定経営支援マネージャー事業委員長（2011年～）、小規模事業者持続化補助金採択委員会全国委員長（2015年～）などを務める。経済産業省・農林水産省・中小企業庁の各種委員も歴任した。



■ 本書のみどころ

・渋沢栄一の経営思想が10カ条でわかる本、「新紙幣」発行と同時に発売

2024年7月3日は、福沢諭吉に代わり、渋沢栄一が肖像になった「新1万円札」が流通する日です。渋沢栄一に注目が集まるこの時期に全国発売する『理想の経営——渋沢栄一に学ぶ成功への10カ条』は、渋沢の出身地、埼玉県の経営者一家に生まれ、祖父から渋沢経営を叩き込まれた著者が、その思想をやさしく解きほぐし、経営指針として10カ条にエッセンスをまとめたものです。

「こうして見ると、全体を通じて、驚くべき言葉はあまりないかもしれない。しかし、当たり前なのが経営には大切だということに気づかされる」（「はじめに」より）と著者自身も述べていますが、実行できているかという「耳に痛い部分も多々ある」といいます。

本書の序章では、日本が世界に誇る経営者である渋沢の人生を概観し、「第1条 やりたいことを明確に描く」から「第10条 事業継続していく会社を目指す」まで、わかりやすく端的な言葉で解説し、各項に「渋沢栄一はこう考えた」として、そのエッセンスを抽出したエビデンスを示しました。順番に読み進め、実行に移していけば、「社会貢献できて利益が出せる会社（組織）は必ず作れる」と著者はいいます。

会社経営や部門経営に忙しいリーダーにとって、渋沢の経営思想を手早く血肉にするうえで、便利に活用できるビジネス書です。

■ 有隣堂の出版物の紹介

・単行本 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/tanko>

・新書 <https://www.yurindo.co.jp/yurin/sinsho>
